

## コンテナガーデニングの始め方

倉 ひとみ

コンテナとは、植木鉢やプランターなどの容器(コンテナ)に植物を植え、庭やベランダなど、さまざまな場所で楽しむガーデニングのことです。

狭い場所や、土がない場所でもガーデニングを楽しめます。

コンテナごと移動できるので、場所の変更やレイアウト変更が簡単にできます。

季節やイベントに合わせて、寄せ植えをアレンジしたり配置を変えたりできます。

花壇と組み合わせたり、立体的に演出したりといろいろな楽しみ方ができます。

「元気な花をいっぱい咲かせるために！」

### ✿ 土づくりが大事

「よい土」

- ① 通気性がよい
- ② 排水性(水はけ)がよい
- ③ 保水性がよい
- ④ 保肥性がよい
- ⑤ 有機物をほどよく含む
- ⑥ 軽すぎず、重すぎず
- ⑦ 酸性にもアルカリ性にも偏らない
- ⑧ 清潔で異物が混ざっていない

古い土も再利用できる！

植物の枯れた後の鉢やプランターの古い土は、土粒が崩れて水はけや通気が悪くなっています。そして、植物の根から出た有機酸や肥料成分の一部が偏って残っています。

また、病菌や害虫の卵なども残っている心配があり、そのまま使うことは好ましくありません。

鉢やプランターから抜いた土は、植物の根やごろ土(鉢底に敷いた大粒の土)を取り除き、よく乾燥させます。ふるいにかけると細かい土も除けます。

乾燥させた後、ビニール袋に入れて保管しておきます。

夏になったらこの土を日光消毒します。ビニール袋のまま平たく置きます。高温による殺菌、殺虫が目的です。7～10日間ほど、袋を裏返したりしながらよく日に当てます。

### ✿ 肥料も大事

無機質(化学合成)と有機質(天然物)

速効性と緩効性、遅効性

三要素

窒素(N) 葉や茎を成長させる養分

リン酸(P) 開花や結実を促す養分、また根の成長も促す作用も持つ

カリ(K) 根や茎を丈夫にし、各部分の成長を良好に保つ働きをする

## ✿水やりのコツ

表面の土が乾いたら、なるべく花にかかるないよう、底穴から流れるくらいたっぷり与えます。

容器が大きくなるほど、乾くのが遅くなります。

水分を好むものは、鉢土の表面乾き始めたころに与えます。

多肉植物のように乾燥を好むものは、表面が乾ききってからさらに1~2日待って与えるようにします。

少しづつ与えるより、ウォータースペースがいっぱいになり、さらに鉢底から水が流れ出るまで一度にたっぷり与えます。

古い空気が鉢から追い出され、地表から新鮮な空気がたっぷりと鉢の中に吸い込まれます。またハンギングの土の表面や、留守にする鉢土の表面に水苔を敷いておくと、乾燥を防いだり泥はねが原因の病気も防げます。

## 「美しい花をより長く楽しむために！」

まんべんなく日光に当てます。

こまめに花がらを摘みましょう。

草姿が乱れたら切り戻しをします。

夏のあいだはコンテナの下にすのこを敷きます。

コンテナの水やりは乾いたらたっぷりと与えましょう。

ハンギングバスケットは水切れに注意しましょう。

水やりの時間帯はライフスタイルに応じて無理せず行いましょう。

病気は日ごろの管理で予防、害虫を見つけたら早めに対策をしましょう。

- 1 液肥は、普通の倍の濃いものを時々与えるとよく効きます。 ( )
- 2 水やりは、ウォータースペースがいっぱいになるまで水を与えます。 ( )
- 3 切り戻しは、夏前に一度行います。 ( )
- 4 鉢で育てる花は、1年に一度必ず植え替えます。 ( )
- 5 薬剤は、希釈倍数に薄めたものは、1週間以内に使いります。 ( )